カエル君、ヒーローになりたい

劇団だるい

[登場人物]
カエル
男

（明転。男が自分の部屋に帰ってくると、カエルが正座している。）

男　　あー、つかれた。明日も研修か。名刺交換の練習って。
　　（名刺交換の真似をして）あ、どうもどうも。
　　あほか。あーだるいなー。ったく・・・

（男、カエルを見つける。）

男　　おわあああああっ
カエル　　おかえりなさい。ごはんにしますか。お風呂にしますか。
男　　いや、あの
カエル　　入っちゃまずかったですか。それは思慮が足りなかったということがなきにしもあられ
　　（ちょっと日本語が難しい）・・・
男　　ん？
カエル　　すみません。お風呂とご飯のしたくしちゃいました
男　　まあいいけど。
カエル　　ですよね！　で、ごはんにします？
男　　あ、はあ
カエル　　じゃまあ、お座りください
男　　ああ、おかまいなく。

（男、座る。）

男　　って、いやいやいや
カエル　　お、ナイスのりつっこみ
男　　そういうのいらないから。なんなんですか、あんた。

カエル　　・・・ミー？
男　　ユー。
カエル　　（ささやくように）欧米か。
男　　今欧米かっていっただろ！
カエル　　どうも、私カエル　　です。
男　　あ、どうも……いやいやいやカエルって
カエル　　カエルです。ちょっと鳴いてみますか？

（カエルは頬をふくらませ、鳴く。）

男　　あ、そうやって、げこげこってね。……つかれてるのかな
カエル　　困ってますか？
男　　困ってますね！　状況に！
カエル　　大変だ、私はどうすれば

（カエルは突然、何かを目で追い始める。）

男　　突然うわのそらだし
カエル　　あの、ここここ、このハエが気になって
男　　食うのかよ
カエル　　いえ、だだだ大丈夫です
男　　いいよ、食べなよ

（カエルは、舌を出して、虫を捕らえる。）

カエル　　（ぺろん）
男　　すげー舌みじかいな！　ああ……（なんなんだこれ、という気持ち）
カエル　　で、〇〇はどこにいったのかって話でしたっけ
男　　ぜんぜん違うよ。
カエル　　（改まって）私ね、おりいってお願いにきたんですよ
男　　お願い？
カエル　　ええ
男　　なんでまた僕に
カエル　　物事には順番があるんで。まずはおちついて。

（カエル、ヨガのようなリラックスした声を出して。）

カエル　　りらー。りらー。ご一緒に
男　　・・・(しぶしぶ）りらー、

（カエルはやらない。）

男　　やらないのかよ
カエル　　順番といえば、私のことはね、ひとつカエル君とよんでください。
男　　カエル……さん
カエル　　カエル君
男　　……カエル君。
カエル　　どうも（ぺこり)。
男　　あ、どうも（ぺこり)。

（カエルは、嬉しそうににこにこしている。）

男　　あーなんなんだろうこの空気。
カエル　　お、なんだなんだ（何が起こったのか、察知しようとする)。
男　　空気の話だよ。
カエル　　（警戒する）どこだっ
男　　だから空気だよ
カエル　　なーんだ（ほほをふくらませる）
男　　むかつくなー。
　　・・・で、なんでそのカエル君が、僕のところに？

（カエルは、よくぞ聞いてくれた、といった感じで居住まいを正す。）

カエル　　私、ヒーローになりたいんですよ。
男　　ヒーロー？
カエル　　そう。スーパー戦隊に入って日本を守るんです
男　　スーパー戦隊って、ゴレンジャーとか、そういうの？
カエル　　ええ。
男　　マスクマンとか？
カエル　　レッドマスク・タケルを隊長として地帝王ゼーバと戦った
男　　くわしいな。
カエル　　先輩になる人たちですからね。

（男は、どういったら良いものか、迷う。）

男　　ええと、その、ヒーロー、信じてるんだ。
カエル　　信じるも何も、いますよ。
男　　あのさ、夢をこわすようだけど、あれ、テレビだよ？
カエル　　あれはヒーローのドキュメンタリーですよ
男　　スポンサーがバンダイだぞ？
カエル　　バンダイは、武器開発会社ですよ！
男　　ぜってえちげえよ！
カエル　　色紙ももらったんですよ。読売ランドで
男　　ああ、うん。ああ……
カエル　　優しいですねヒーローは
男　　いやだから……あーもういいや。じゃあさ、そんなカエル君が、なんで僕のところに？
カエル　　はい、あなたからいただきたいものがあるんです。
男　　僕から？

（カエル、突然不穏な空気を醸し出して。）

カエル　　ふっふっふ。
男　　な？
カエル　　それはお前の命だ！（襲いかかるポーズ）
男　　うわあああああああ！！！！！

（しばらく見つめ合い）

カエル　　……うそですよ
男　　……わかってたよ？
カエル　　ええ。
男　　で、なんで僕なの？
カエル　　あなたじゃないとだめなんです。
男　　なんでまた

（カエル、正座して、じっと男を見つめ小声で）

カエル　　あなたヒーローですね？
男　　はあ？
カエル　　あなた、スーパー戦隊の一員でしょ？

男　　あのねカエル君
カエル　　ああ、いいんです、いいんです。身分を隠さないといけないですからね。
男　　だから
カエル　　でも、私は知ってますよ。ほら。

（カエルは、古びたノートを取り出して、男に見せる）

男　　なに、このノート。修行日記？
カエル　　そう。
男　　あ、これ！　なんでカエル君が
カエル　　拾ったんです。あなたのおうちのそばの田んぼでね。
男　　ああ、（なまって）たまちゃんところの
カエル　　そうそう。（なまって）たまちゃんところの

（地元が近かったということがわかり、何かうれしい）

男　　なんなんだろうこの分かりあえたみたいな空気。
カエル　　お、なんだなんだ（何が起こったのか、察知しようとする）。
男　　空気だよっつってんだろ。
カエル　　（警戒して）どこだっ

（カエルは、匂いをかぎ出す。）

男　　ねえよ。においかぐなよ。
カエル　　なーんだ（ほほをふくらませ、目線を男に送る。）
男　　すげえむかつくなその顔。

（カエル、ノートを指さし）

カエル　　そんなことよりこれですよ
男　　そうだよ、なんでこれもってるの
カエル　　話すと長いんですが、私、小さいころチェンジマンの活躍を見まして
男　　どうやって
カエル　　田んぼから家のテレビを覗き見したんです
男　　（カエルの体を眺め）カエル君が？
カエル　　あ、普段はちいさくなってるんで。
男　　じゃあ今小さくなってみてよ

カエル　　隊長のレッドがかっこよくてねー
男　　無視か
カエル　　そのとき決めたんです、そうだスーパー戦隊の一員になろうって
男　　（ささやくように）分不相応ってしってる？
カエル　　でもどうやっていいのかわからなくて。カエルですからね。
男　　だろうね
カエル　　私、悲しくてずっとないてました（げこげこ泣く）
男　　うわー悲しくなさそう
カエル　　ずっと泣いてました。ずっと。このノートが現れるまで。

（カエル、ノートを大切そうに差し出す。）

男　　あ、ここでノートが出てくるのね
カエル　　ごみ収集車から、このノートが私のところに落ちてきましてね
男　　ああ、そういえば、母ちゃんが昔のノート捨てたとか言ってたな
カエル　　読めばヒーローの修行の記録じゃないですか
男　　ああ、なつかしいなー。小学生のときだっけ？
カエル　　小学生から、中学三年生までですね。
男　　長いな！
カエル　　いけませんよ、こんなもの捨てちゃ。
　　力の秘密が知られてしまうところでしたよ？
男　　秘密？

（カエル、ノートをめくり、男に見せながら）

カエル　　ほら、だって。修行がぜんぶ書いてあるんですよ？　こんなもの敵に見られたら大変だ
男　　あ、うん、敵ね、うわーそれは大変だなあー

（カエル、ノートをめくり、読み上げる）

カエル　　「今日は、腕立て伏せ 30 と、腹筋 30 と、波紋を出す練習をやった」
男　　あああ、読み上げないで。恥ずかしいから
カエル　　小学３年生のときです。カメハメ派じゃなくジョジョ第一、二部の波紋に目をつけるとは
男　　そう、ちょっと斜めな子だったんだよねって返して、返して

カエル　小学校 5 年生「今日は、腕立て 30・腹筋 30・波紋のいつものメニューと、がけから落ちそうになっている仲間をロープ一本で引っ張りあげる練習をした」
男　やめてー
カエル　中学 1 年生「今日は、いつものメニューと、ヒーローの武器の使い方の研究をした。やはりバンダイはすごい。でも自分は波紋でやっていこうと思う」
男　バンダイ武器会社だと思ってるし
カエル　中学 2 年生「波紋はまだでない」「波紋は出るはずなんだ」「波紋は出ないのか？」

（カエル、すでに感情移入している。）

カエル　出ますよ！！！！　がんばって！！！！
男　いやあああ

（カエル、ノートを閉じ）

カエル　いやー、わたし、ひたむきな姿に感動いたしました。涙が出ました
男　僕も今なみだがでている。別の意味で。
カエル　つらい修行の日々があって、今があるんですものね。
男　そうね。
カエル　あの、おりいってお願いがあるんですけれど。
男　……なに？
カエル　このノート、私にくれませんか？　ヒーローを志す後輩に。
男　うーん
カエル　おねがいします！
男　そんなにほしいなら、あげるよ
カエル　ありがとうございます！
男　でも、絶対見せないでね、特に中学の同期とかには絶対
カエル　もちろんです、強さの秘密ですから
男　そう、秘密だからね
カエル　ありがとうございます！！！！
男　よろこんでもらえてうれしいよ。
カエル　よろこぶもなにも、この日記のすばらしいこと、とくにここからです。

（カエルは再びノートをめくり）

カエル　　中学三年生の夏の、「あの子に告白された」ここからですね。
男　　ああああああ、やめて！
カエル　　「あの子を守るために強くなるんだ！」
男　　あー、死ぬー、死ぬー！
カエル　　いいんですよ、恥ずかしがらなくて。恋は人を強くしますからね。
カエル　　「あの子を守るパワーで波紋が出せるんだ！」
男　　中３の自分を殺したい
カエル　　愛のために鍛錬。感動です。「あの子、波紋、あの子、波紋！」
男　　もう意味わからないし！
カエル　　この日記を見て、わたしがんばります。（ページをめくりながら）
男　　あの、やっぱり返してくれないかな、やっぱりそれは葬り去らないと
カエル　　（ページをめくる）ん？　あれ？
男　　え？　なに、どうしたの。

（カエルは、ノートの前のページを見たり、今のページを見たりする）

カエル　　終わってる
男　　終わってるっていうな！
カエル　　いえ、突然終わってるんです
男　　突然？

（カエルは、ノートを男に見せる。）

カエル　　「あの子に見られた」これで終わってるんです。
男　　・・・あ、そう
カエル　　これまで気づかなかったんですけど、最後に小さく。ほら
男　　ああ、これね。
カエル　　修行はどうなったんですか？

（男は、少し姿勢を直し）

男　　ね、カエル　君、この後、僕はどうなったと思う？
カエル　　そりゃあもう、波紋を習得して
男　　僕ね、ヒーロー、なれなかったよ
カエル　　え？
男　　修行をあの子にみられてドン引きされて、ついでにあの子を好きなこともばれて、無視されてそれで中学は終わり。

カエル　　え？
男　　それから、修行なんてばからしくなってね
カエル　　え、じゃあ
男　　うん。そうなんだ。やめちゃった。

（カエルは、信じられないといった風）

カエル　　やめちゃったって
男　　ちなみに、「あの子に告白された」っていうのは書いてみただけなんだ
カエル　　そんな思春期みたいな
男　　思春期なんだよ！
カエル　　じゃあ波紋は？
男　　出ないよ、そんなもん。
カエル　　じゃあ、ヒーローだっていうのは
男　　ただの学生だよ、僕は。
カエル　　じゃあ
男　　ヒーローなんかじゃない
カエル　　あ、じゃあヒーローの卵
男　　夢も希望もない企業から内定をもらってサラリーマンになるよ。毎日研修中。
カエル　　企業戦隊サラリーマン？
男　　ちがうよ。ヒーローとは程遠いよ。体だってよわっちい。ほら

（男は、立ち上がり、右手の力こぶを見せる）

カエル　　そんな・・・

（カエルは、男の右腕にぶらさがるが、男は全く支えられない。ストンとカエルが落ちて）

男　　・・・ね。
カエル　　・・・そんな、じゃあこのノートを使って修行しても
男　　そうなんだ
カエル　　ヒーローにはなれない
男　　残念だけど
カエル　　そんな・・・、だって、これから修行をして、強くなって、ヒーローになって

男　　悪かったね、長野から出てきてもらったのに

（カエルは悲しげにげこげこ泣く。男はそれを見ている。カエルはひたすら泣いている。）

男　　……うそだよ、うそ！

（カエルは、まだ泣いている）

男　　ほら、泣くなよ。あのさ、カエル君のいったとおりなんだよ。僕たちって、身分隠さなきゃおいけないんだ。でも、あのな、絶対言うなよ。僕、スーパー戦隊の、レッドで内定とったんだ。
カエル　　え？
男　　だから、レッドで内定。今研修中
カエル　　本当に？
男　　本当だって。今日研修で覚えたんだけどな、しっかり見てろよ。
企業戦隊サラリーマン！

（男はサラリーマン的なポーズを取る）

カエル　　新しい！
男　　いくぜ、営業スマイル！

（男は、ぎごちなり笑いを披露する）

男　　くらえ、名刺交換！

（男は、シャキーン、シャキーンなどと言いながら、名刺を取り出すマイム）

男　　・・・あ、どうもどうも（名刺を渡す真似）
カエル　　なんかすごい！
男　　サラリーマンの基本！　報告連絡相談！　ホウレンソウ！　課長例の件ですが
カエル　　てょあーー！

（男は、いよいよ怪人を追い詰めたといった風で）

男　　必殺、ボーナス払い！！！！　ボーナス一括で！
カエル　　ほあーーー！
男　　力だって、ほら、つかまれよ！

（男は力こぶを見せる）

カエル　　はい！

（カエルはぶら下がる。今度は、しっかりと支えられている）

男　　ほらな！　（こっそり両手で支えている）
カエル　　内定おめでとうございます！
男　　ありがとう。
カエル　　大変だったでしょう？
男　　まあね
カエル　　どのへんが？
男　　ええと、すごい大変。めちゃくちゃ大変。
カエル　　はー、具体的には？
男　　もう、すっごい大変なんだよ！
カエル　　ほあー、
男　　あと、日記のあの子な。あいつも内定とったんだ。
　　僕と同期で、ホワイトの予定
カエル　　えええ？？？
男　　でね、僕の（小指）これ。
カエル　　・・・無視されたっていうのは？
男　　そんなわけないだろ！
カエル　　ですよね！！！！
男　　あはははは。・・・心が痛い

（カエルは、レッドとホワイトの恋に思いを馳せる）

カエル　　レッドとホワイトで恋人なんてロマンチックですね・・・
男　　ああ、毎日ピンクだぜ、赤と白なだけに、ってうまくないな
カエル　　赤と白なだけにピンク！　なるほど、ご自身の赤とあの子の白がまざっている、いや交わっているということをピンクであらわした、おやじギャグですね
男　　解説するのはやめて

カエル　　つまり、やりまくりですね！
男　　やりまくりっていうな！
カエル　　私、がんばります！　（ひときわ気合が入る）ほあー！！！！
男　　動機がいやらしいな！
カエル　　私、このノートを見てがんばります！　ありがとうございます！

（カエル、ノートを持ち、立ち上がって帰ろうとする）

男　　あー！！！

（男、カエルを引き止めて）

男　　・・・そのノートの通りにやってもねえ、だめかな。
カエル　　なんで。この修行で内定とったんでしょ？
男　　ええと、あ、そうだ。ヒーローへの道は、自分でひらかなきゃいけないんだ。
カエル　　自分で？
男　　そう。僕は、僕の修行をして内定をとった。
カエル　　ええ
男　　カエル君はカエル君の修行があるはずなんだ。
カエル　　私だけの修行。
男　　そう。ヒーローは自分だけの修行をして、それを支えに戦っていくんだ
カエル　　わかりました。じゃあこのノートはおかえしします

（カエルは、ノートを男に返す）

男　　そうか、悪いね。
（ノートを手の届かないところにおき）ふーあぶねえー
カエル　　私、自分なりにヒーローを目指します。なれないかもしれませんけど
男　　なれるよ、また相談においでよ
カエル　　はい。優しいですね
男　　ヒーローだからね
カエル　　そろそろ帰ります。明日も研修あるんですよね。
男　　ああ、もちろん。

（カエル、正座して、しっかりと男を見据えて）

カエル　　がんばってくださいね。あなたなら絶対かっこいいヒーローになれると思います。私、わかるんです。厳しい修行をしたあなたなら、どんなことにも負けないって。何があってもくじけないって。
男　　・・・あたりまえだろ
カエル　　ですよね！　それじゃ、失礼します

（カエルは去る。男はしばらくノートを見ている）

男　　うん。明日燃やそう。

（もうちょっとノートを眺めて）

男　　……研修だるいなー

（男は数を数えながら腕立てをはじめる。）

おわり

■初演
・2007 年 3 月　劇団だるい 001「夢見がちハイツ」
・於　東京大学構内キャンパスプラザ

■上演等をご希望の方へ
劇団だるい WEB のお問い合わせページからご連絡ください。
https://www.gekidandarui.com/contact/

※同ページに記載の台本ご利用上の注意事項もご確認ください。